

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
----	-------	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	母子の家庭訪問事業		
根拠法令等	母子保健法		A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象（受益者）	新生児及び乳幼児とその家族に（希望者）
手 段	保健師・助産師が訪問し、相談や指導を行い
想定する成果	健康面や育児に関する不安の軽減を図り、より健康な日常生活を送ることが出来る。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績		平成16年度実績		平成17年度計画	
保健師の訪問件数	134人	延229人	117人	延195人	113人	延200人
助産師の訪問件数	37人	延 74人	40人	延 80人	50人	延100人
赤ちゃん生まれました ハガキ	—		配布337件・返信75件・訪問13件		配布320件・返信150件・訪問30件	

### ④成果指標

成果指標名	①	②
	一人当たりの訪問回数	一回の訪問に要する経費
成果指標の説明	年間訪問件数／年間延訪問件数	(事業費－県補助金)／年間延訪問件数

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 )

(千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	1.84回
	実績	1.77回	1.75回	—
成果指標 ②	計画	—	—	16,847円
	実績	10,938円	11,913円	—
事業費	事業費	190	212	273
	人件費	3,247	3,214	4,968
	(人数)	0.4	0.4	0.6
	合計	3,437	3,426	5,241
財源内訳	国			125
	県	123	150	62
	市債			
	その他			
	一般財源	3,314	3,276	5,054

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	家庭訪問することで、家庭環境が把握できるため、より家庭状況にあわせた指導ができる。
経済効率性	2	2	訪問一回につき11,913円の経費を要するため、経済効率性は低い。
事務効率性	2	2	事務効率性を求めるには、パートの保健師の雇用が必要である。
必要性	2	3	育児不安の軽減や虐待を予防するためにも、乳幼児期の家庭訪問が必要である。
小計	8 /12 満点中	9 /12 満点中	
市民参加度	3	3	訪問件数が年間300件前後あり、市民要望は多いにある。
合計	11 /15 満点中	12 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	母子保健の家庭訪問は社会問題に関わることもあり、関係機関と連携を密にして対処している。重要な保健事業として位置づけている。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

- ・できるだけ早い段階で母子に関わっていくことで、早期に育児不安の軽減ができるよう赤ちゃん生まれましたハガキ事業をスタートした。
- ・平成16年度から虐待事例に関しては、課内で虐待事例検討会を月一回実施している。

⑧今後改善すべき点

--

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

非常勤職員の保健師を採用し、赤ちゃん生まれましたハガキの返信分の訪問を実施したい。

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
事業コード		事務事業名	健康づくり推進事業	
根拠法令等			A法令 B条例 C規則 Dその他 <u>Eなし</u>	

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象(受益者)	市民のために
手 段	健康づくり講演会やむし歯予防フェスティバルに企画、運営することによって
想定する成果	疾病予防と健康意識の高揚を図る。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
むし歯予防フェスティバル参加者	1,142人	1,248人	1,165人
健康づくり講演会の参加者数と定員	参加者数 209人	参加者数 190人	参加者数 150人
	定員 500人	定員 200人	定員 200人
体温計・救急箱の点検数	16校17園1施設 774本	16校17園1施設 710本	16校17園1施設 700本

### ④成果指標

成果指標名	①	②
	参加者一人当たりの事業費	講演会の参加率
成果指標の説明	事業費/年間参加者数	参加者数/定員

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標①	計画	—	—	1,367円
	実績	1,275円	1,226円	—
成果指標②	計画	—	—	75.0%
	実績	41.8%	95.0%	—
事業費	事業費	953	1,000	1,016
	人件費	812	804	828
	(人数)	0.1	0.1	0.1
	合計	1,765	1,804	1,844
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	1,765	1,804	1,844

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	講演会・むし歯予防フェスティバルの参加者数はほぼ目標に達している。
経済効率性	2	2	参加者一人当たりの1,227円の経費は、妥当と考える。
事務効率性	2	2	医師会・歯科医師会・薬剤師会が主体で実施しているため、事務効率性には問題はない。
必要性	2	3	講演会で市民が日常生活に必要な専門情報を得ることや、健康増進のために歯の大切を伝えるイベントとして必要である。
小計	8 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	乳幼児のフッ素塗布が無料で出来る等、市民要望は満たされている事業である。
合計	10 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	むし歯予防フェスティバルは地域に根付いた事業として認知されており、参加者も確実に1,000人以上あり、継続的な事業として展開できる。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

平成17年度のむし歯予防フェスティバルに「出前健康チェック事業」の同時開催を提案し、歯科医師会の了承を得た。

⑧今後改善すべき点

- ・むし歯予防フェスティバルの開催時間を短縮し、経費削減とマンパワーの確保をする。
- ・講演会のあと参加者からアンケートをとり、市民により身近な演題を医師会に提案していきたい。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
----	-------	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	食生活改善推進育成事業		
根拠法令等	地域保健法		A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象(受益者)	市民に
手 段	食生活の改善に係わる各種事業を実施することによって
想定する成果	市民の健康増進に寄与していく。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績		平成16年度実績		平成17年度計画	
ヘルスマイト育成教室の回数と参加者数	13回	262人	—	—	13回	240人
独居老人昼食会の回数と参加者数	7回	194人	6回	175人	7回	157人
ヘルササポーター21の回数と参加者数	8回	112人	8回	98人	4回	60人

### ④成果指標

成果指標名	①	②
	一回当たりの参加者数	健康づくり食生活改善協議会会員数
成果指標の説明	年間参加者数/年間実施回数	健康づくり食生活改善協議会会員数

### ⑤事業の進捗状況 (一般会計) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標①	計画	—	—	19.0人
	実績	20.3人	19.5人	—
成果指標②	計画	—	—	—
	実績	83人	96人	—
事業費	事業費	1,029	864	984
	人件費	8,117	8,036	7,452
	(人数)	1.0	1.0	0.9
	合計	9,146	8,900	8,436
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	9,146	8,900	8,436

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	3	ボランティアの食生活関連事業での活躍は期待以上で、達成度は高い。
経済効率性	3	3	試食作りや食生活のアドバイス等保健事業の協力に対して、ボランティアの協力費は一回1,200円で経済効率性は高い。
事務効率性	2	3	職員は専門知識の提供等で、事務効率性には問題はない。
必要性	3	3	保健事業に行政とボランティア団体と協働で事業展開をしており、必要な事業である。
小計	10 /12 満点中	12 /12 満点中	
市民参加度	2	2	参加者の評価は良好であるが、チラシや回覧での周知では参加者は少ない。
合計	12 /15 満点中	14 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	A	ボランティア団体の食生活改善協議会は10年の実績を積み、保健事業の社会資源として期待されており、様々な場面で評価されている。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

独居老人昼食会を地区を分けて隔年開催に変更し、平成15年度から「健康がまごおり21」の推進に向け健康づくりの実践者を増やすことを目指し、ヘルスサポーター事業をスタートさせた。

⑧今後改善すべき点

独居老人昼食会の目的を見直し、食生活について市民により身近に届けられる事業に改善していく必要がある。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
----	-------	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	健康まつり推進事業				
根拠法令等			A法令	B条例	C規則	Dその他	Eなし

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象（受益者）	蒲郡市民に
手 段	健康に対する意識を啓発するため各種医療関係団体の協力を受け健康まつりを開催することによって
想定する成果	健康に対する意識啓発を図る。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
参加者	1,000人	1,000人	1,200人
従事者	185人	184人	185人
実行委員会の委託料	1,000,000円	900,000円	850,000円

### ④成果指標

成果指標名	①	②
	従事者1人当たり参加者数	参加者1人当たり要する委託料
成果指標の説明	参加者数／従事者数	実行委員会の委託料／参加者数

### ⑤事業の進捗状況（ 一般会計 ）（千円）

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標①	計画	—	—	6.4人
	実績	5.4人	5.4人	—
成果指標②	計画	—	—	708円
	実績	1,000円	900円	—
事業費	事業費	1,000	900	850
	人件費	4,059	4,018	4,140
	(人数)	0.5	0.5	0.5
	合計	5,059	4,918	4,990
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	5,059	4,918	4,990

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	まつりへの来場者が減少はしているが、その各相談コーナーや検査コーナーでの対応がしっかりとできた。
経済効率性	2	2	健康意識の向上や健康がまごおり21の周知の場であるので、費用面だけから考えるとかならずしも経済効率が良いとはいえない。
事務効率性	2	2	各種構成団体にも協力をしてもらい事業運営をしているので職員だけの対応よりは良いといえる。
必要性	2	2	市民の健康福祉への意識改革・向上への一端となるため、今後とも継続していく必要がある。
小計	8 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	来場者の人数の問題はあるものの参加者の期待は大きい。
合計	10 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	C	B	来場者数の伸び悩みの問題はあるものの、健康福祉への興味を持たせる導入部となるコーナーや日頃気にしている健康上の心配事などが、気軽に相談できるよい機会を提供しているものと考えられる。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営費の削減をしてきた。（予算減）</li> <li>・不人気であったコーナー（バザー）をやめ、栄養士会コーナーを充実させ好評であった。</li> <li>・健康がまごおり21のPRのため、自主グループの活動をしてもらえた。</li> <li>・若い世代の来場推進のため、3B体操（親子遊び体操）を継続した。</li> </ul>
---

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・広告ちらしをポスターに変更し経費削減する。</li> <li>・子ども向け・大人向けチラシをそれぞれ作成し、対象者ごとに配布場所を変える。</li> <li>・関係者の駐車に問題があったので、駐車場所の周知の徹底を図る。</li> </ul>
---

⑨平成18年度予算に反映する項目

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各コーナーをよく吟味し、取捨選択して経費の削減を図る。</li> <li>・健康がまごおり21のさらなるPRの充実のための予算拡充。</li> </ul>
---

⑩組織、人員に関する提言

<p>より広範囲の参加が望めるので、環境を通じての健康、福祉を通じての健康、食を通じての健康等々健康に結びつけがけるものは数多いので、他課からの参加をしてまつりの活性化に協力をしてもらいたい。</p>
--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載



## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
事業コード		事務事業名	成人の健康管理教室事業	
根拠法令等	老人保健法		A法令 B条例 C規則 Dその他 Eなし	

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象(受益者)	基本健康診査の結果、生活習慣改善を要する者と一般市民に
手 段	成人の健康管理教室を開催し、生活習慣病予防のための知識を普及することによって
想定する成果	生活習慣改善への意識高揚を図る。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
実施回数	—	4回	4回
参加者数	—	49人	80人
定員	—	25人×4回	30人×4回

### ④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	定員に対する参加率	参加者一人に要する一般財源
成果指標の説明	参加者数/定員×100	(事業費－国・県補助金)/参加者数

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	66.7%
	実績	—	49.0%	—
成果指標 ②	計画	—	—	10,875円
	実績	—	17,490円	—
事業費	事業費	—	113	102
	人件費	—	804	828
	(人数)	—	0.1	0.1
	合計	—	917	930
財源内訳	国	—	30	30
	県	—	30	30
	市債	—	—	—
	その他	—	—	—
	一般財源	—	857	870

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	50%の参加率には問題があるが、参加者の生活習慣の改善の意識付け目標には成果があった。
経済効率性	2	2	参加者一人当たり17,490円の経費であり、費用対効果は低い。
事務効率性	2	2	ボランティアの協力体制が整っているが、事業準備に効率性が低い。
必要性	1	1	市民病院が様々な事業展開をしてる中、事業の継続の検討が必要である。
小計	7 /12 満点中	7 /12 満点中	
市民参加度	2	2	参加者に毎回アンケートをお願いし、市民要望も捉えている。
合計	9 /15 満点中	9 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	C	C	参加者の生活改善の改善策を見つけられ効果があったが、準備等の事務量を比較すると効率性が良いとは言えない。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

教室の医師報酬費の減額ができた。

⑧今後改善すべき点

・病院関係者・医師会等に働きかけ、保健センターでの事業実施の必要性や、今後、当市の糖尿病予備軍の市民のフォロー体制を検討する。  
・保健センターで事業実施の場合は働き盛りの男性に糖尿病予備軍が増加傾向にあるため、教室を休日開催にし、周知方法も商工会議所やスーパー等へ依頼していく。

⑨平成18年度予算に反映する項目

蒲郡市医師会に継続して講師を依頼をしているが、医師報酬費を医師会以外の医師報酬費と同額にしていく。

⑩組織、人員に関する提言

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
事業コード		事務事業名	成人の家庭訪問と自主グループ支援事業	
根拠法令等	老人保健法		A法令 B条例 C規則 Dその他 Eなし	

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象(受益者)	家庭において健康について不安を抱える市民に
手 段	本人及び家族等に個々の日常生活に合わせた保健指導を行うことにより
想定する成果	健康に関する不安の軽減と健康づくりへの意識高揚を図る。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
家庭訪問件数	実人数 58人 延人数 133人	実人数 48人 延人数 95人	実人数 60人 延人数 130人
自主グループ事業の支援回数と参加者数	47回 1,270人	63回 1,613人	60回 1,500人

### ④成果指標

	①	②
成果指標名	一人当たりの訪問回数	一回当たりの自主グループ事業の参加者数
成果指標の説明	訪問延人数／実人数	参加者数／支援回数

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	2.2回
	実績	2.3回	2.0回	—
成果指標 ②	計画	—	—	25.0人
	実績	27.0人	25.6人	—
事業費	事業費	441	248	379
	人件費	5,682	11,250	7,452
	(人数)	0.7	1.4	0.9
	合計	6,123	11,498	7,831
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	6,123	11,498	7,831

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	家庭訪問することで、家庭環境が把握できるため、より家庭状況にあわせた指導ができる。
経済効率性	1	1	人件費が事業費の大部分を占め、経済効率性は低い。
事務効率性	1	1	自主グループ支援事業は一回の参加者数が25.6人で効率性は高いが、訪問事業は効率性は低い。
必要性	2	2	健康に関する講話と健康相談にのり、必要性の高い事業であり、訪問事業は老人保健法に基づいて実施している。
小計	6 /12 満点中	6 /12 満点中	
市民参加度	2	2	市民の訪問依頼と、自主グループの要望によるため、市民参加度は高い事業である。
合計	8 /15 満点中	8 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	訪問件数は減少傾向にあるが、訪問事業を通して決め細やかな地区把握等や訪問家族への保健指導に必要性が高い。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

介護保険サービスが充実してきたため、訪問件数が減少傾向にあるところから、寝たきり・痴呆などの予防を目的とした訪問を実施した。

⑧今後改善すべき点

生活習慣病予防・介護予防を目的とした訪問を実施し、医療機関と連携を図り訪問指導をしていきたい。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
事業コード		事務事業名	保健医療センター管理運営事業	
根拠法令等			A法令 B条例 C規則 Dその他 Eなし	

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象(受益者)	蒲郡市民及び施設利用者に
手 段	保健医療センターを適切に管理運営することによって
想定する成果	乳幼児健診・予防接種事業及び健診などの安定した実施を達成する。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
利用者数	21,842人	20,762人	21,473人
空調設備等保守 点検委託料	9,061,500円	9,061,500円	8,962,000円
清掃委託料	4,828,824円	4,791,024円	4,692,000円
光熱水費	9,460,585円	9,565,984円	9,613,000円

### ④成果指標

成果指標名	利用者1人当たりの必要経費	②
成果指標の説明	総事業費/利用者数×100	

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	1,604円
	実績	1,542円	1,705円	—
成果指標 ②	計画	—	—	—
	実績	—	—	—
事業費	事業費	33,688	35,403	34,452
	人件費	11,364	12,054	12,420
	(人数)	1.4	1.5	1.5
	合計	45,052	47,457	46,872
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	使用料	8,222	8,454	8,243
	一般財源	36,830	39,003	38,629

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	市民の健康福祉の充実及び質向上を目的としていおり、当センターとしては十分その目的を達成している。
経済効率性	2	2	休日急病・休日歯科・人間ドック等費用対効果としては十分でない点もあるが、それらは、公共事業として必須の事業である。1つの建物に市民健康福祉に関する複数の機能がある効率のよい施設。
事務効率性	2	2	「赤ちゃんが生まれましたハガキ」や予防接種事業のワクチンの一括購入など経費の削減に努めつつ事業拡充している。
必要性	3	3	当センターは、市民に対しての総合健康福祉施設であるので、市民ニーズは高く今後とも事業拡充等より質の高いサービスを提供するために必要な施設である。
小計	9 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	3	3	予防接種事業、乳ガンや子宮ガンの集団検診、また各種健康相談など市民の参加（利用）度は高い。
合計	12 / 15 満点中	12 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	当センターの事業の中でも費用対効果を改善すべきものもあるので、関係機関や業者と費用面での交渉をする必要がある。市民の健康に対する意識は日々高まっているので、それに対応できるよう努めていく。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

- ・無駄な光熱水費を使わないよう職員全体で心掛けた。
- ・委託料を抑えるため、業者と交渉した。（中部電気保安協会、セコム、岡崎花園、サニクリーン名古屋 費用減額：▲131,412円）

⑧今後改善すべき点

- ・事業が医師や歯科医師の昼の休業時間を中心に組まれるので、それ以外の時間も保健師等職員で対応できる事業を設定し、より多くの市民に当施設の利用をしてもらって健康福祉増進に努めてもらえるよう事業の拡充等改善する。
- ・当センター内に事務所を構える3師会（医師会・歯科医師会・薬剤師会）に対しても無駄な光熱水費を使わないよう協力を求める。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

- ・母子・予防接種・成人事業ともに事業量が市民ニーズとともに増えてきているので、事務の効率化と職員がそれぞれの事業の把握をすることが大切なので、福祉関係の課の経験者や窓口業務経験者などの人員や事務量に比べ不足している保健師等専門職の確保をお願いしたい。

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
事業コード		事務事業名	人間ドック管理運営事業	
根拠法令等			A法令 B条例 C規則 Dその他	Eなし

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象(受益者)	事業所等を通じて人間ドックを受診できる市民に
手 段	人間ドック事業を実施することによって
想定する成果	より質の高い詳細な健康状態のデータを提供し、病気の早期発見、予防を図る。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
ドック利用者	2,019人	2,121人	2,070人
要精検査数	1,875人	1,996人	1,936人
収入額	59,183,000円	61,759,000円	59,665,000円

### ④成果指標

成果指標名	①	②
	要再検査率	ドック受診者1人に要する経費
成果指標の説明	要再検査者数/ドック利用者×100	(総事業費-収入額)/ドック利用者

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	93.5%
	実績	92.9%	94.1%	—
成果指標 ②	計画	—	—	48,000円
	実績	51,000円	49,000円	—
事業費	事業費	157,945	160,399	155,594
	人件費	4,870	4,822	4,140
	(人数)	0.6	0.6	0.5
	合計	162,815	165,221	159,734
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	受診者負担金	59,183	61,759	59,665
	一般財源	103,632	103,462	100,069

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	年間2千人を超える利用者があり達成度は低くない。
経済効率性	1	1	単純に事業費を考えると効率はよくはないが、在勤者・市民の方の健康に対する貢献は費用計算できないものがある。
事務効率性	2	2	年間で受診者の波があり、スタッフの数は決まっているので、秋頃からの受診者増を考え、人間的な事務効率を年間を通して平均化する必要がある。
必要性	2	3	健康保険料における本人負担は増加していく傾向にあり、疾病の予防早期発見が望まれるため精度の高い人間ドックは必要である。
小計	7 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	事業所からの健診が多く、一般市民の受診はあまり多くない。
合計	9 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	コスト面では、費用対効果が数字上はやや弱いものの、3大成人病（ガン・脳卒中・心臓病）などの疾病の早期発見・予防は健全な家庭生活を営む上で基礎であり、当保健医療センターでの人間ドック受診は過去に遡った病歴からのチェックや各専門医による検査など他の人間ドックの質を上回るもので受診者から信頼を得ており評価は高い。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

- ・個人情報保護法に関して蒲郡市医師会との委託契約や各事業所に対しての個人情報の提供するのあたり同意書を徴取する等対処した。
- ・受診にあたり問診を受診者同士隣合わせでしていたが、個別に問診をとるように改善した。

⑧今後改善すべき点

- ・受診者の増加するよう努力する。
- ・年間通しての受診者の波を減らす。
- ・委託料の削減の交渉を進める。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載



## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
事業コード		事務事業名	健康プラン推進事業	
根拠法令等	健康増進法	A(法令)	B 条例	C 規則 D その他 E なし

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象(受益者)	市民に
手 段	市民と協働で「健康がまごおり21」を周知することで
想定する成果	健康づくりに取り組む市民を一人でも多く増やすため。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
健康プラン推進グループの活動実施回数と参加者数	—	5 グループ 29回 290人	5 グループ 33回 314人

### ④成果指標

成果指標名	①	②
	一回実施当たりの参加者数	ウオーキングマップ作成グループ数
成果指標の説明	年間参加者数/年間実施回数	ウオーキングマップ作成グループ数

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 )

(千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	9.5人
	実績	—	10人	—
成果指標 ②	計画	—	—	—
	実績	—	4グループ	—
事業費	事業費	—	70	81
	人件費	—	3,169	4,140
	(人数)	—	0.43	0.5
	合計	—	3,239	4,221
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	—	3,239	4,221

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	各地区に分かれて活動を展開し、どの地区も「健康がまごおり21」の周知に効果的な活動ができた。
経済効率性	3	3	経費は小額で手作りのマップ等が作成され、経済効率性は高い。
事務効率性	3	3	参加者はボランティアのため事務効率性は高い。
必要性	3	3	「健康がまごおり21」の計画を市民に浸透させるには、行政だけでなく市民と協働体制が必要である。
小計	11 / 12 満点中	11 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	「健康がまごおり21」づくりの会の市民ワーキングメンバー及び一般公募で参加希望した市民の会であるため参加度は高い。
合計	13 / 15 満点中	13 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	A	多くの地区でウォーキングマップ作成に集中し、メンバー自らの手でマップを完成させ評価を得た。また、観光協会からの要望で観光客にも利用されている。
------	---	---	---

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

--

⑧今後改善すべき点

- ・次年度は運動の推進に偏らず、「食事」「心の健康・休養」などの分野に広げていきたい。
- ・ウォーキングマップを市民の健康づくりに活用するため様々な機会に配布し、マップを使ったウォーキングイベント等を開催したい。
- ・自主活動化を目指し、職員の事業時間数の削減を図る。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

--

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載

## 平成16年度事務事業評価表

担当	市民福祉部	健康推進課	内線等	8078
事業コード		事務事業名	出前健康チェック事業	
根拠法令等	老人保健法	A(法令)	B 条例	C 規則 D その他 E なし

### ①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	保健

### ②事務事業の内容

対象(受益者)	一般市民に
手 段	様々なイベント、場所を利用して健康チェックを実施することで
想定する成果	市民の健康に対する関心を高め、「健康がまごおり21」を広く一般市民に周知する。

### ③事業の概要

項 目	平成15年度実績	平成16年度実績	平成17年度計画
出前の健康チェックの実施回数と利用者数	—	32回 1,639人	34回 2,512人

### ④成果指標

成果指標名	①	②
1回当たりの利用者数	利用者一人に要する経費	
成果指標の説明	年間延利用者数／年間実施回数	(事業費－国・県補助金)／年間利用者数

### ⑤事業の進捗状況 ( 一般会計 ) (千円)

		平成15年度決算	平成16年度決算	平成17年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	73.9人
	実績	—	51.2人	—
成果指標 ②	計画	—	—	2,414円
	実績	—	3,718円	—
事業費	事業費	—	208	172
	人件費	—	5,972	5,973
	(人数)	—	0.85	1.15
	合計	—	6,180	6,145
財源内訳	国	—	43	40
	県	—	43	40
	市債	—	—	—
	その他	—	—	—
	一般財源	—	6,094	6,065

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	事業の周知が偏っていたことや、目標の幅広い年齢層の市民の利用、利用者数には課題がある。
経済効率性	2	2	一人当たり経費3,718円は効率性が低く、より多くの市民の利用を図りたい。
事務効率性	2	2	ボランティアの協力もあり効率性に問題はない。しかし、スタッフの人数や人数配置に改善が必要であり、周知方法を検討し利用者の増加を図る必要がある。
必要性	2	3	「保健センター」の認知度を高めていくためにも、また、保健事業への参加や利用拡大が図られる事業として必要である。
小計	8 / 12 満点中	9 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	ボランティアが地域の住民の方に、健康チェックの説明や保健事業の紹介ができ、市民からの要望も聞くことができる。
合計	10 / 15 満点中	11 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	C	B	公民館のイベントやスーパーに出向いて、今まで保健事業を利用したことのない市民と関わり、保健事業の参加や利用拡大が図られる事業として、継続的に実施していく必要がある。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

・平成17年度「むし歯予防フェスティバル」に、主催の蒲郡市歯科医師会から「出前健康チェック」の同時開催の了承を得た。

⑧今後改善すべき点

市内の大型スーパーで集客数の多い店で開催し、更に多くの市民の利用が期待できると考えられるため、他店での実施も検討する。

⑨平成18年度予算に反映する項目

--

⑩組織、人員に関する提言

土・日曜日の開催が多いため、非常勤職員の出勤が促せないため一部内容の充実が難しい。

※各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載